

## 内閣総理大臣賞（最優秀賞）

### 私が使っている水

京都府 綾部市立上林中学校 一年 柏原 葵

私は六年前、大都会の大阪から、上林というとても自然豊かな場所に引っ越してきました。上林に引っ越して来るまでは、何もしなくても、じゃ口をひねれば水がでてきました。お風呂も、ボタン一つおせば、きれいな温かいお湯がたまっていました。

しかし、上林のくらしは全然ちがいました。特に私が住んでいる集落は、水道がきていませんでした。三年前まで山水をろ過して使用していました。

山水を使っていたころは、水量も少なく、お風呂に水をためるのも、すごく時間がかかりました。私の母に聞いてみると、山水で大変だったことは、「水圧が弱いこと」そして、雨がたくさん降ったときに「水がにごること」もう一つは、雨の後、パイプが詰まって、「水が出なくなる」とです。

私たちが使用している山水は、山奥の方から、長い長いパイプを下って、家の近くの貯水タンクでろ過されて、私たちの家に来ていました。そのため、水量も少なく、水圧も弱くなります。

それに、台風のように、たくさん雨が降ると、いろいろな葉っぱやどろなども混ざって、勢いよく流れてくるので、ろ過しきれず、少しにごった水が、家に届くときもあります。でも、母がいちばん大変だと言っていたのは、台風で、水が出なくなったりするときです。時々、台風のとく、水が流れるパイプが葉やどろでつまってしまったり、はずれてしまったりする場合があります。その時は、雨の中、地域の人と水源まで見に行つて、パイプをそうじしたり、はずれたパイプを直したりしています。しかし、水源に行くのは、その時だけではありません。一年に数回、交代で、見に行かないといけません。もし、パイプがはずれかけていたり、まわりがどろでいっぱいだったら、再度つまり、水が出なくなってしまうからです。私は一度、母といっしょに水源に行つたことがあ

ります。私はついて行って、おどろきました。水源のある場所がすごく山奥で、うす暗い場所だったからです。水の量は、川のようにたくさん水が流れているというわけがなく、ちよろちよるとわき水程度でした。パイプも、とても細いのが通っているだけだったので、自分達が使っている水の大切さ、ありがたみを感じる事ができました。

しかし、私は一つ、疑問に思いました。なぜなら、私の家は、現在、井戸水を使うようになり、山水は使わなくなっていたにも関わらず、母や父は山水の貯水タンクのそうじに参加しているからです。不思議に思つたので、母に尋ねると、「もし、井戸が枯れたり、電気がなくなると、井戸水を上上げるポンプが使えなくなり、また、山水を使うことになるから。」と答えてくれました。母が水のことを大切にしている思いが伝わり、私も、これから、もっとそうじに参加していきたいと思いました。

今は、井戸水になり、水がにごったり、水圧が弱くなったりして、困ることも無くなりました。ですが、井戸水も、いずれ枯れてしまいます。私は、これからも毎日のように使っていく自然の水を、大切に使うつもりです。

水は、私たちのことを苦しめることもたくさんあります。でも水は、私たちには、無くてはならない存在です。その水を守っていくのは、私たち、人間だと思えます。自分たちにできることは、ポイ捨てをしないことや、ゴミ拾いをする事など、本当に小さなことかもしれませんが、でも、今、一人でも何かしないと、いつか私たちに必ずかえってきます。そうならないためにも、私たちにできることは何なのかを考えることが大切だと私は思えます。